

序

1995年、静脈麻酔薬プロポフォールの販売が始まり、日本の静脈麻酔は夜明けを迎えました。その後、プロポフォールのプレフィルド製剤とTCI (target controlled infusion) が認可され、また、2007年にはレミフェンタニルが発売開始となり、全静脈麻酔 (TIVA: total intravenous anesthesia) を行う環境が整いました。今年2015年は、日本の静脈麻酔にとって成人式を迎える年です。

静脈麻酔薬は吸入麻酔薬と比べて、覚醒の質が高い、術後の嘔気嘔吐が少ない、麻酔薬の曝露がないなど優れた特徴があります。しかし、とりえず気化器のダイヤルを回せば麻酔ができる吸入麻酔と比べると、薬物動態や脳波モニタリングの理解が必要な静脈麻酔は敷居が高いことも事実です。もちろん、学会などでは静脈麻酔に関する講演もあり、また、関連する書籍も出版されていますが、数式や難解な用語に圧倒され、それだけで静脈麻酔を敬遠している人もいます。

比較的新しい“文化”である静脈麻酔は、普及の状況が施設間でかなりの差があるとも言われています。静脈麻酔を積極的に実施している施設もあれば、ほとんど行っていない施設もあります。また、静脈麻酔について先輩麻酔科医に聞いても納得できる回答が得られなかったり、逆に、後輩から静脈麻酔に関する質問を受けてもうまく説明できない指導医がいるという話も聞こえてきます。

そこで、自他共に認める静脈麻酔のエヴァンジェリスト (伝道者) に集まっていただき、静脈麻酔の“文化”を広く、正しく浸透させることを目的として本書を企画しました。本書は静脈麻酔の臨床を学べるノウハウ本です。日常の麻酔業務のなかで知りたい事柄や疑問に思っていることが即座に得られるように、静脈麻酔に関する99の質問を選んで、一問一答形式で解説しました。しかし、ただのノウハウ本ではありません。解説には“なぜ、そのようにするのか?”という理論や考え方を記載しました。本書は、静脈麻酔の正しい理解にきつと役立つはずで

プロポフォールが国内に導入されて20年、これからも静脈麻酔は進化を続けていくはずで。静脈麻酔の経験が少ない人だけでなく、静脈麻酔に慣れている人にとっても、本書が役立つことを確信しています。

2015年10月

静脈麻酔のエヴァンジェリストを代表して
内田 整